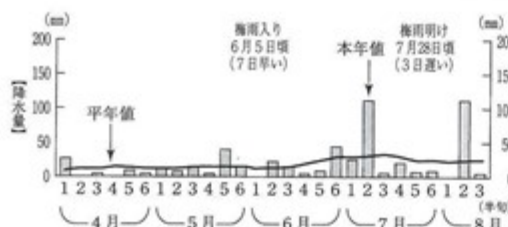
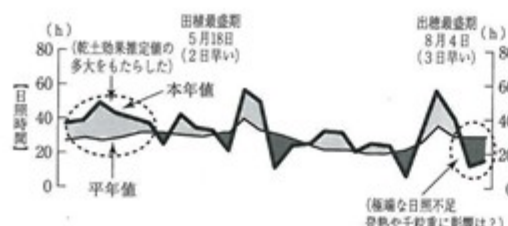
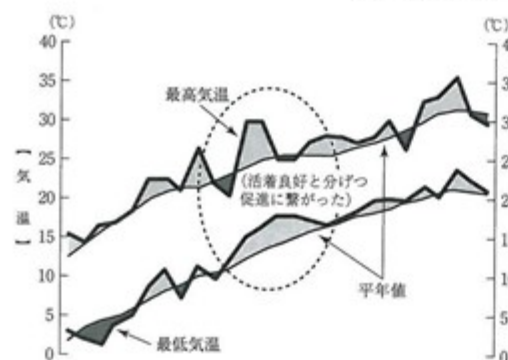


図1. 平成26年半月別気象図(山形)
(山形地方気象台より)



資料: 山形地方気象台
注: 1 田植え期及び出穂期の最盛期は、県平均の期日である。
2 () 内の日数の運速は、対平年差である。

表1. 26年産水稲早稲地帯の作柄
(8月15日現在) (農水省より)

道県	作柄	登熟
北海道	良	平年並み
青森	やや良	平年並み
岩手	やや良	平年並み
宮城	やや良	平年並み
秋田	やや良	平年並み
山形	やや良	平年並み
福島	やや良	平年並み
茨城	やや良	平年並み
栃木	やや良	平年並み
群馬	やや良	平年並み
新潟	やや良	平年並み
富山	やや良	平年並み
石川	やや良	平年並み
福井	やや良	平年並み
長野	やや良	平年並み
岐阜	やや良	平年並み
愛知	やや良	平年並み
三重	やや良	平年並み
滋賀	やや良	平年並み
京都	やや良	平年並み
奈良	やや良	平年並み
和歌山	やや良	平年並み
徳島	やや良	平年並み
高松	やや良	平年並み
香川	やや良	平年並み
岡山	やや良	平年並み
広島	やや良	平年並み
山口	やや良	平年並み
大分	やや良	平年並み
熊本	やや良	平年並み
鹿児島	やや良	平年並み
沖縄	やや良	平年並み

素2つをまとめて述べた。
残り2つの要素(登熟歩合と千粒重)は収穫作業が終了すれば明らかにになる。
いづれにしても、初期生育の促進拡大が速やかになされた事が「やや良」の作柄に繋がったように思われる。

登熟歩合と千粒重の高まり具合が力ギ!!
「やや良」の作柄に繋がったように思われる。
残る登熟歩合と千粒重の高まり次第で、先に出されている作況「やや良」から「平年作」はたまにある。

た「豊作」になるのか、9月15日現在では把握できない。
特に図1に示した通り、登熟期(8月第2半旬~第5半旬まで)の極端な日照不足が気になるところである。
また、千粒重は稲穀の大きさ(長さ×幅)が、平年比93~94%と小さかったことから大きな期待は出来ないように思われる。
いづれにしても、本誌がお手元に届く頃には各自それぞれ結果を掌握されていることと思われる。
的がはずれている事柄もあろうかと思うが、風の強く吹きぬける地域や、ダシ風がほとんど吹かない地域等で白穂や褐変の発生の有無の違いもあるので、傾向として述べたものである。

収穫・初調製作業の感触から改善策を!!

コンバイン刈取りの時の稲量の多少を確認して考察する。
10~30aと一定の面積を刈取つ

農水省が発表した26年度水稲の8月15日現在作柄概況によると、早稲地帯(北海道・東北・北陸・関東の一部)19道県の作柄は表1に示すように「良」ないし「やや良」の「平年並み」となっている。
西日本の一部では、7月末の台風12号による豪雨以来日照不足が続いており、今後作柄の低下も予

想される。
庄内・由利地域においても台風11号以来日照が少なく、登熟が表1にある通りやや遅れぎみとなっているが、最終的な結果はどうであつたか、天候が回復するにつれ登熟も進み実収も作況指数に近い「やや良」でほとと胸をなでおろしている。
今年の生育を少し振り返ってみると、春一番、耕起前後に晴天続きで、過去に体験したことがない

ほどの乾土効果推定値(大きい)が出た。移植期も活潑期も風の強い日が数日あったものの天候に恵まれ、初期生育も順調に進み、6月20日頃の8葉期迄に目標とする葉数が確保された圃場が大方であつた。
最高分けつ期・幼穂形成期・穂孕期(7月下旬~8月上旬)は、心配された冷夏もなく天候に恵まれたことから順調な生育を辿り、平年より3日程早い出穂となった。

(図1参照)
全体的に、穂数は平年比111~120%と「多い」。
一穂当たり穂数は、穂数が多いことによる相反作用もあつたのか平年比95~96%と「少ない」。
全初数(一穂当たり穂数×一穂当たり初数)は、平年比106~114%で「多い」となったようである。
以上、今年の全体的なイナ型(収量構成要素4つの内、数の要

初期生育が促進拡大され豊作に!!

想される。
庄内・由利地域においても台風11号以来日照が少なく、登熟が表1にある通りやや遅れぎみとなっ

指導部長 松浦 一 宇

登熟歩合・千粒重如何で豊作も!!

知って得するイナ作技術 パートII

9



今年のイネづくりも天候に振り回されながらも懸命な努力で無事、終了といった状況かと思われる。
西日本を中心に集中豪雨による土砂災害等が多く発生した。被災された方々には衷心より御見舞い申し上げる次第である。
庄内・由利地域においても台風11号による「白穂」や「褐変」の発生した地域はあつたものの、全体的には「やや良」といった声が多いようであるが、常に検証を加え向上に繋げることが重要である。

良書紹介

「私、農家になりました」

フリーライターで農村通信の熱心な読者である三好かやのさんが、共著で誠文堂新光社から標記の本を出版されました。就農して成功した12事例がまとめてあり、農業界にキラキラ輝く希望の新星たちを紹介しています。



最近の新聞で、山形県として調査をはじめて以来過去最高の264人が新規就農したこと、そのうち農家出身ではなく新規参入就農者が97人いることが報じられています。

山形県の販売農家は、2010センサスで約4万戸でこの10年間に3割減少しています。今後、少子高齢化の影響もありさらに農家数が減少することは明らかであるが、新規就農者が増えるということはこれまでの経済の論理から新しい価値観を持つ青年層が出現したことかも知れない。

- (1) 厚まき苗のドツサリ植えに走らない。
- (2) 基肥N量を多肥にしない。
- (3) 健苗育成と栽植密度の適正化に努める。
- (4) 浅植え（2〜3cm）の助行で分げつ促進と間張型の健全イネに。
- (5) 保水的水管理の助行で初期生育の促進拡大を計る。
- (6) 除草剤等による生育停滞の軽減を計る。
- (7) 田ワキや青ミドロ、表層剥離等

近年、田植え後の田ワキやアオミドロ・表層剥離がひどく、初期

生ワラ処理・土作り 次のイネ作りを

生育の停滞・分げつ確保に支障を来していると言う声が多い。昔とちがって生ワラ全量が働き込まれる圃場がほとんどであることから、イネ作期間に出来る限り支障を来さない処理対応をすることが大切である。

(1) 石灰や石灰窒素のような分解促進する資材を施用、さらに秋耕
(2) 生ワラ分解酵素（アグリ革命・ワラクサール等）を投与し秋耕
(3) ブラウ耕等で秋耕・透水性を良くしながら、生ワラの分解促進を図るといった方法が考えられる。

以上のような事例を徹底することが大切である。

生育の停滞・分げつ確保に支障を来していると言う声が多い。

改善策は図2に示す通りであるが、欠点は共通しているところが多く具体的な改善策は次の通りである。

3つのタイプ別刈り場のイネ

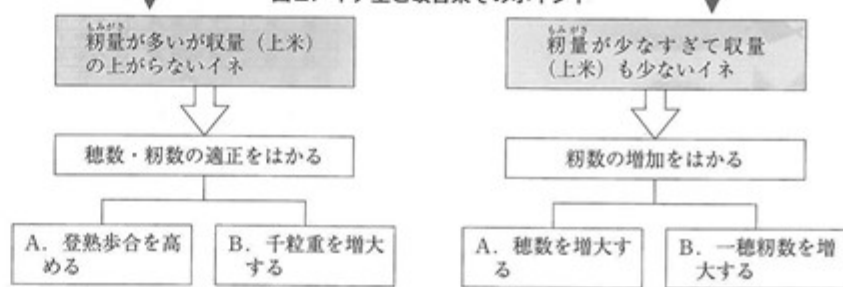


過繁茂徒長で倒伏したイネ。

穂数、粒数も十分に健全多収イネ。

穂数不足で収量の上がらないチャランチャランのイネ。

図2. イネ型と改善策そのポイント



た後の稲量が多いイネ、少な目のイネとの相違は、搬送用のタンクや乾燥機の張り込み量等で感じられるものである。

次に、初摺り調整作業で登熟歩合の良否と実収量（上米収量）がわかる。

稲量と上米収量との関係では次の4つに分類される。

(1) 稲量が多いが収量（上米）がいま一つ上がらないタイプ（写真A）「クズ米作りになっている」。

(2) 稲量もほとんど多く収量も多いタイプ（写真B）。

(3) 稲量は普通だが意外と収量の多いタイプ「登熟歩合と千粒重が抜群に高いイネ」。

(4) 稲量が少なすぎて収量もきわめて少ないタイプ（写真C）。

以上(1)〜(4)の内、理想とするイネ型はただ一つ(2)である。

100%天然有機リン酸肥料

マドラグアノ

MADURA GUANO (A GUANO)

マドラウイング株式会社

水戸市鯉淵町4212-60
TEL: 029-259-7491
FAX: 029-259-7492